

Rikkyo Club of Executives & Professionals

立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：松原伸禎 事務局：TEL.03-3985-3135 <https://www.r-keizaijin.net/>

総会開催報告



2025年6月20日（金）17:30より当クラブ定期総会が開催されました。総会は第1部の定期総会、第2部の基調講演、第3部の懇親会の3部構成で行われ、会場となった大手町の東京會館 LEVEL XXIには73名の会員、2名のゲスト、17名の来賓にご参加いただきました。

第1部の定期総会は品川総務委員長の司会進行で始まりました。冒頭、大塚会長より開会のご挨拶をいただきました。その後当会会則第11条に則り、大塚会長が議長につき、審議事項に入りました。1号議案 2024年度事業報告を井口事務局長より、2号議案 2024年度決算報告を飯泉財務委員長より説明いただき、岩田監査委員長より監査報告の後、質疑応答を経て審議の上、会場に出席された参加者により拍手で承認されました。

続きまして、3号議案 2025年度事業計画書を井口事務局長、4号議案 2025年度予算計画書を飯泉財務委員長より説明いただき、質疑応答を経て審議の上、承認されました。

引き続き18:00より、第2部はヒューリック株式会社取締役副社長の中嶋忠氏（1980 経）より「不動産マーケットとヒューリックの取り組み」と題して講演をいただきました。

19:00からは第3部の懇親会です。品川総務委員長の司会で開宴し、大塚会長より開宴の挨拶をいただきました。まず、日本経済の現状と課題を語られ、ITやAIを活用して生産性を上げていくことが不可欠と強調されました。また、助成金の活用や設備投資の推進が重要であるとし、経済人クラブが会員自身、お客様にとっても良い効果をもたらす場になればと、ご挨拶をいただきました。

続いて来賓の皆様からご挨拶をいただきました。はじ

めに立教学院理事長の福田裕昭様より、6月1日に理事長として二期目に入り、「新しい価値観の創造とブランディングへの繋げ方」「収益構造の改革」「新しい魅力的な募金政策」など、気持ちを新たに決意を述べられました。また、先日逝去された長嶋茂雄さんにも触れられ、今秋に立教学院として礼拝を開催する意向を示されました。

次に、立教大学総長の西原廉太様より、「環境学部新設」「国際連携とグローバル化」「同志社大学をはじめ他大学との連携・交流」「学生・卒業生のスポーツ活動の現状」など、大学のトピックを共有いただきました。最後に長嶋茂雄さんのメッセージが刻まれた「立教の後輩たちへ」という石碑の文章を読み上げられ、会場は感動に包まれました。

その後、ご参加いただいた来賓の方々のご紹介があり、千葉拡大委員長より本年の賀詞交換会以降に入会された10名の新入会員の自己紹介と記念撮影を行った後、校友会の和田会長より乾杯のご発声をいただき、懇親会がスタートしました。

会員はもとよりゲスト、来賓も含め総勢約100名のご参加をいただき、賑やかに活発に意見を交わしました。盛り上がりがピークに達したタイミングで、立教大学の校歌斉唱、エールを応援団OBの福井順会員（1984 営）に送っていただきました。

最後に昆副会長より中締めのご挨拶をいただき、閉会となりました。今回の東京會館 LEVEL XXIは初めて利用した会場でしたが、ご参加された皆様のご協力の下、円滑に会を進行することができました。引き続き皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

—松原 伸禎 2000史—

基調講演

講師：ヒューリック株式会社 取締役副社長 中嶋忠氏

テーマ 不動産マーケットとヒューリックの取り組み

はじめに

1980年経済学部卒業の中嶋です。本日は不動産マーケットの現況と、また現在私が勤務しているヒューリックがどのような取り組みをしているかという話をしてみたいです。

不動産マーケットの状況

1. トランプ関税による影響…金利の動き

不動産業界にとって金利の動向は極めて重要であり、トランプ関税実施時には先行き不安から金利が下がり、不動産株が上昇しました。しかし、最近では長期金利が上昇傾向にあり、今後の金利の動きがマーケットに大きな影響を与えるとして、その動向を注視する必要があります。

2. 海外ファンドの動向

日本の不動産マーケットは海外ファンドの投資姿勢に大きく左右されます。リーマンショック時には海外ファンドが一斉に資金を引き揚げ、地価下落を招いたというケースがありました。一方でモルガン・スタンレーが「インフレ環境下での不動産投資に大きな可能性」を見出し、1000億円規模のファンドを設立した事例があります。「日本のゼロ金利、ゼロ成長の終わり」と今後の金利や物価上昇が不動産に反映されていくというマーケットの力学の変化が起きています。

3. PEファンド・企業買収の動向・株式の非公開化

近年、PEファンド（プライベートエクイティファンド）の活動が活発化しており、アクティビストによる株主提案やTOBが増加しています。彼らは企業の「含み益」の顕在化と配当への還元を強く主張し、不動産会社も「回転ビジネスモデル」へと経営方針を転換しています。三井不動産が聖域なき不動産売却を検討したり、当社がPEファンドから不動産購入の打診を受けるといったこともあります。

4. 銀座の地価・賃料動向

当社は現在銀座を重点エリアに定め、37棟のビルを保有し、8棟で再開発を進めるなど、その動向を詳細に把握しています。建築費高騰が採算を圧迫する中、銀座は土地代が9割を占めるため、建築費上昇の影響が比較的少ないです。中央通りの坪単価は3億～5億円弱に達し、ブランドショップの賃料は坪30万円台半ば、クリニックやホテルも高水準の賃料を維持しており、活況が続いています。

ヒューリックの考えていること

1. 当社の紹介

当社は1957年創業の旧富士銀行系不動産会社で、2008年の東証一部上場から16年で経常利益が100億円から1540億円へと驚異的な成長を遂げました。社員の行動指針は「変革とスピード」です。

2. 人口減少の不動産マーケットへの影響…非大艦巨砲主義

当社はBtoBに特化しています。また、海外事業も一時撤退しましたが、自己資本の1割をリスク許容範囲として再進出し、アメリカ（住宅・老人ホーム）、シンガポール（物流施設）、ベトナム（住宅・工場）、インド（成長市場）へ投資しています。上場時は7割を超えていたオフィスの賃料売上比率を、現在では40%程度まで削減し、商業施設、ホテル、データセンターといった新たなアセットへの投資を強化しています。

3. こどもでばーとの推進

少子化にもかかわらず、子ども一人あたりにかかる費用が増加している点に着目し、塾、スポーツ施設、クリニック、親子カフェなどをワンストップで提供する施設を開発。中野やたまプラーザにオープンし、渋谷、自由が丘などにも展開予定です。学童保育の不足という社会課題解決にも貢献を目指しています。

4. 都心型データセンターの推進

AI推進によるデータセンター需要の急増に対応。電力供給の課題がある中で、日本橋小舟町に通信をメインとした都心型データセンターを竣工しました。大手町に近い立地が強みで、東陽町などにも展開を計画しています。

5. 旅館"ふふ"の展開

高価格帯の旅館「ふふ」シリーズを全国10カ所で展開し、全施設がミシュランキーを獲得しています。銀座一丁目や三浦半島の城ヶ島にも新規オープンを予定しています。労働人口の確保が課題となる中、軽井沢や河口湖での展開も検討しています。

6. M&Aの推進…脱不動産

「不動産業は成長産業ではない」という認識のもと、他社との差別化を図るため、M&Aを積極的に推進。リソー教育やレーサムをグループ化し、不動産業にとどまらない「複合経営」を目指し、将来的に「総合商社的な会社」への変革を志向しています。

人生を振り返って思うこと

1. "恵まれたサラリーマン人生" "運が良い人生"

実は妻とは立教のテニスサークルで知り合いました。卒業後、野村不動産に就職し、40人いた同期から最終的に役員になったのは4人、私はその中でも48歳の時に最後に役員になりました。その後、縁あってヒューリックに入社し、3ヶ月ほど経ったところで心筋梗塞を発症。生死をさまよい、「人生観が変わる」出来事となりました。これを期に「感謝の気持ち」を人生の指標とすることを決意、若い社員との交流を通じて「気持ちが若返る」喜びを感じ、運に恵まれた人生に感謝し、今後も社会に貢献していきたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

—松原 伸禎 2000史—

第2回 朝食勉強会

講師：株式会社ママントレ 代表取締役 須澤美佳氏

2025年8月20日（水）今年度第1回朝食勉強会がホテルニューオータニ AZALEA（アッザレーア）にて開催されました。今回は18名の参加者の下、株式会社ママントレ代表取締役須澤美佳様より、「女性の活躍が生み出す企業の可能性～多様な働き方で競争力強化～」と題し、様々な形で女性活躍の場を生み出してきた同社の取り組みをお話いただきました。

テーマ 女性の活躍が生み出す企業の可能性 ～多様な働き方で競争力強化～

はじめに

ママントレの須澤と申します。このような貴重な機会をいただきましてありがとうございます。本日は女性の活躍が生み出す企業の可能性、多様な働き方で競争力強化ということで、私自身の経験からお話をさせていただければと思います。私は2000年に立教大学経済学部を卒業後、システムエンジニアとしてキャリアを積みしました。結婚・出産を機に働き方に制約を受け、復職や収入維持の難しさを体験したことが転機となり、「株式会社ママントレ」を創業。拠点は兵庫県芦屋市で、子育て世代や女性に向けた多様な働き方を支援しています。主力事業の「エリアマイスター」は、在宅や短時間勤務を希望する約1000名の登録者と企業をつなぐマッチングサービスです。行政や大手企業とも協働し、地方でも導入事例を広げています。

起業の背景 —「働きづらさ」を力に変えて

私が起業に至った最大の理由は、自分自身が直面した「働きづらさ」です。SEとして順調にキャリアを積んでいたものの、出産後は保育園に入れない、正社員復帰が困難、収入が大幅に減少するなど、数々の壁が立ちました。「子どもがいるだけで採用のハードルが上がる」という現実もあり、雇用の仕組みだけに依存した働き方に限界を感じました。その中で出会ったのが、フリーランスという働き方です。自宅からでもパソコンを通じてできる仕事があると気づき、ITスキルを活かしてサポートを開始しました。この小さな一歩が、やがて多様な働き方を提供する現在の事業へと発展していきました。

なぜ今、「多様な働き方」なのか

少子高齢化による労働力不足はますます深刻化しています。2040年には約1100万人の労働人口が不足すると予測されており、特に地方や中小企業では人材確保が最大の課題となっています。一方で、能力や意欲がありながら「フルタイム・出社・雇用」という条件に合わないために働けない女性は数多く存在します。背景には育児や介護、夫の転勤など、ライフイベントによって働き方が左右されやすい現実があります。従来型の雇用に合わせてではなく、働き手に合わせた柔軟な仕組みが求められる時代になりつつあるのです。

多様な働き方の可能性

第一歩は「業務の可視化・切り出し」です。例えば求人条件を「週3日・10～14時・在宅可」とするだけで応募が急増する例もあり、わずかな工夫で優秀な人材と出会える可能性が広がります。また、在宅ワークや短時間勤務に限らず、業務委託や副業人材、ジョブシェアといった仕組みを取り入れることで、企業は必要ときに必要なスキルを得ることが

できます。これにより経費削減や社員の負担軽減が図れるだけでなく、外部から新しい発想や知識を持ち込むことができ、組織の活性化にもつながります。

導入の進め方

導入の第一歩は「業務の可視化・切り出し」です。日常業務を洗い出すことで、在宅や短時間勤務でも対応できる仕事が明確になります。例えば、資料作成やデータ入力、SNS運用などは在宅でも成果が見えやすく、導入初期に適しています。小さな成功を積み重ねることで社内の理解と信頼を得られ、さらに大きな取り組みへと広げることができます。採用の現場では「ブランクがあるから不安」「年齢が高いから不安」といった先入観が根強く残っています。しかし、ポテンシャルや相性を重視して採用した人材が予想以上の成果を上げる事例は多く、採用基準の柔軟化が求められます。

導入時のポイント

- ・雇用か業務委託かの見極め：包括的に任せたいなら雇用、成果単位なら業務委託が有効です。
- ・短時間正社員制度：フルタイムでなくても正社員と同条件で雇用でき、優秀な人材の流出を防ぎます。
- ・採用基準の再設定：意欲やスキルに着目することで、多様な人材を活かせます。
- ・法令順守：2024年に施行された「フリーランス新法」など、最新制度への対応も不可欠です。

まとめ

女性の活躍推進は「社会課題解決」ではなく「企業の成長戦略」です。女性が働きやすい環境は、結果的に男性やシニア、介護世代にとっても働きやすい環境となり、組織全体の生産性やエンゲージメントを高めます。フルタイム・出社・雇用という従来の枠にとらわれず、多様な働き方を取り入れることで、より多くの人が幸せに働ける社会が実現します。企業が柔軟な環境を整えることこそ、未来の競争力強化につながります。 —松原 伸禎 2000史—



第85回 ゴルフ会

2025年7月26日（土）、第85回立教経済人クラブゴルフ会が、名門・東京ゴルフ倶楽部にて開催されました。参加者は22名でした。

当日は気温が35度を超える猛暑日となりました。同倶楽部では「暑さ指数（WBGT）が31℃を超えた場合、プレーを即時中止する」というルールが定められており、その規定に従い、ハーフ終了後に競技を中止することとなりました。コースは深いラフにせり出した木々や、フェアウェイの落としどころを慎重に考えさせられる戦略性に富み、改めて名門コースの歴史と格式を実感いたしました。

プレー終了後には、和田校友会会長よりご挨拶をいただき、ハーフのみの成績で表彰式を実施いたしました。

優勝：品川高穂さん（アウトコース 43）

準優勝：今田雄一さん（インコース 48）

優勝者の品川先輩にご挨拶をいただき、さらに初参加の方々からも一言ずつご紹介をいただきました。最後はアグロカネショウ株式会社社長・櫛引先輩より締



めのお言葉を頂戴し、恒例の記念撮影を行って散会となりました。

本ゴルフ会は、上級者から初心者まで幅広い層が参加し、マナーを大切にしながら和やかな雰囲気の中でゴルフを楽しむことを心がけております。今後もさらに多くの校友の皆様にご参加いただき、親睦と交流の輪を広げていきたいと考えております。次回も東京ゴルフ倶楽部にて開催を予定しておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

—植田 剛将 2013法—

ウェルカムナイト

2025年7月9日（水）19:00より、立教経済人クラブ本年度第1回ウェルカムナイトが、日比谷松本楼セントポールズ会館店にて開催されました。今回は新入会員11名を迎え、副会長3名を含む既存会員10名とあわせて、総勢21名のにぎやかな会となりました。

ウェルカムナイトは、新入会員の皆様と既存会員との交流を深めることを目的とした恒例の親睦イベントで、毎回立教らしい和やかな雰囲気が魅力です。今回は会場中央にビュッフェ台を設け、前半は着席形式でじっくりと、後半は立食形式で自由に歓談できるレイアウトが採用されました。

乾杯のご発声は、日頃当クラブ主催のイベントに精力的にご参加いただいている呉東富顧問（66年営卒）より。歴史ある立教のネットワークに新しい風が吹き込まれる瞬間に、あたたかい祝意が会場を包みました。

参加者全員による自己紹介では、それぞれのビジネスや立教との関わり、入会の動機などが語られ、特に2000年以降卒業の新入会員が多く参加されたことから、クラブに新たな活力とフレッシュな風が



吹き込まれている様子が印象的でした。

名物の松本楼カレーをはじめとする美味しい料理や飲み物を楽しみながら会話が弾み、会は終始和やかなムードで進行しました。最後は谷田副会長（87年経卒）による締めのご挨拶。「楽しんでいただけましたか？」との問いかけに、参加者からは自然と大きな拍手と歓声が湧き起こり、大きな盛り上がりの中幕を閉じました。

ウェルカムナイトは経済人クラブの各種イベントの中でも会員同士がより近い距離でご縁を深める絶好の機会です。会員の皆様も是非立教出身の友人をお誘い合わせの上、ご参加ください。お待ちしております。

—千葉 喜章 1989経—

第1回 理事会

2025年5月16日（金）本年度第1回の理事会が開催されました。会長、顧問、理事の方々に加え運営委員会メンバーを含めて20名が参加し、総会に向けた議案についてご審議いただきました。昨年度事業報告、決算、本年度事業計画、予算等について各委員から報告を行い、了承をいただきました。

理事会の後には、新橋亭の美味しい中華を堪能しながら懇親を深めました。今回は、呉先輩の特別な計らいにより、佛跳牆スープ（フカヒレ・ナマコ・貝柱・金華ハム等の乾物を主体とする様々な高級食材で調理する福建省福州市の伝統的なスープ）をご用意いただきました。

—品川 高穂 1996経—

建学の精神をたづねて

～戦前戦後の混迷を支え、導いた先人に学ぶ～

神保町シンクタンク 黒田裕治 (1978年3月 法学部卒)

プロフィール／1955年7月4日 広島県尾道市生まれ。立教高等学校 立教大学を経て、近畿日本ツーリスト株式会社に勤務。2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、現 神保町シンクタンクを主宰。トラスポヘルスケア販売株式会社創立

昭和100年の今年、戦後80年でもあり、本学創立150年を昨年に迎えた「建学の精神」を戦時下にフォーカスしてみます。

*キリスト教主義教育の中断

立教大学は、キリスト教主義学校として、天皇崇拝と矛盾する可能性や、欧米との関係から、軍部や文部省の圧力を受け、その結果キリスト教主義教育を一時的に中断し、皇国史観に基づく教育を強いられました。史実は以下簡素に記します。

〔日米関係の悪化〕米国聖公会と関係の深い立教学院は1940(昭和15)年、日本聖公会が米国聖公会からの経済的独立を受け、基督教教育同盟会が教育機関の日本人化を含む時局への対応について申し合わせを行った。その結果、外国人教師たちは帰国の途につき、1940年10月にははじめはライフスナイダーが理事長・大学総長を辞任。立教学院が日本化されていくなかで、ただひとり日本に留まっていたポール・ラッシュも、1941(昭和16)年12月の日米開戦直後に抑留され、翌年6月には強制送還された。

ここからは、ポール・ラッシュの立教大学との関わりを軸に戦時下の立教大学が翻弄された歴史を見ることにします。

*ポールラッシュの軌跡

1925年1月、国際YMCA(キリスト教青年会)の職員として関東大震災後の東京と横浜のYMCA拠点の再生委員に指名され渡航。1925年5月3日、横浜港に来日し、YMCA再建の仕事に携わる。同時に、早稲田大学理事で、立教大学と同じく聖公会が設立したコロンビア大学でM.A.(修士)を取得した田中穂積(後の早大第4代総長)に誘われて軽井沢に滞在、そこでオペラ歌手のコンサートの開催に関与したり、開業して間もないハリウッド美容室の夏季出店を指導援助した。当初、YMCAの再建終わり次第帰国する予定だったが、立教学院理事長のジョン・マキム主教に請われ、1926年5月に立教大学の教授に着任。当初1年の約束であったが、天性ともいえる組織作りのリーダーシップと面倒見の良さで、早稲田大学の商業英語の教授も兼任するようになったため、昼、夜の区別もなくラッシュの寮が学生のたまり場となる。ここに集まる学生が後に「五番館ボーイズ」と呼ばれ、さまざまな学生生活の母体となった。それが1927年(昭和2年)に設立された英語会大学連盟である。それまで慶應、東京商科(現・一橋)、明治、立教、早稲田の5大学でそれぞれ個別に活動していた英語会(ESS)であったが、学生たちに連携を呼びかけ、英語会大学連盟が設立されることとなった。ラッシュは、立教大学の教授として経済学や英語の教育を行うとともに、アメリカンフットボールの日本での普及に尽力していくこととなる。また山間高冷地で米作に適さなかった清里高原(山梨県北杜市)での酪農、西洋野菜の栽培促進による開拓支援を行った。1927年(昭和2年)、ラッシュによって立教大学に米国聖アンデレ同胞会日本支部が結成され、青年運

動団体として活動を開始。その後、1931年(昭和6年)に米国聖アンデレ同胞会日本支部は米国から独立し「日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)」が発足した。1928年から1931年まで、ルドルフ・トイスラーを助け、聖路加国際病院の新病院建設資金の募金活動を行った。病院の募金目標額は260万ドル(現在の価格に換算して約120億円)で、計画は米国内の市民に募金を呼びかけ、集めたドルで東京・築地に東洋一の世界最高水準の慈善病院を建設することだった。この計画は不可能と思われたが、ラッシュはトイスラーの指示に従い、ニューヨークに募金本部を置き、1931年までの3、4年間で見事に計画した額を達成した。その募金活動成功の背景には、聖路加国際病院が米国聖公会の伝道事業であり、大富豪であるロックフェラー財団やモルガン財団が全面的に協力したためであった。ラッシュが日本の若者に残したメッセージに『Do your best and it must be first class. (最善を尽くし、かつ一流であれ)』がある。この名句は聖路加の募金活動を通じてトイスラー院長からラッシュに伝授されたものであった。

*戦時体制の進行

〔学徒動員〕1941年以降、立教中学校および立教大学では、文部省の指示にもとづいて組織された「報国団」を基礎として、勤労働員が年30日以内で行われるようになる。

1943(昭和18)年になると中等学校以上の学生・生徒の軍需工場などへの動員が本格化し、翌年には1年間を通じて常に動員されることになった。事実上授業は停止状態に陥った。1945(昭和20)年4月からは国民学校初等科以外の学校での授業が停止。

〔学徒出陣〕1941年以降、高等教育機関の学生たちの卒業を早め、士官となる人材を早く集めるための措置。1943年、在学中の徴兵猶予が停止され、学生は、学業のなかばではあっても、戦地に赴かなければならなくなった。軍国主義・国家主義の波は、立教の存在意義であるキリスト教的な要素をも奪っていく。1942(昭和17)年9月、立教学院は、文部省の意向や学院内の反キリスト教運動に屈し、発足以来の目的である「基督教主義ニヨル教育ヲ行フ」を「皇国ノ道ニヨル教育ヲ行フ」に変更し、立教大学の目的に謳われていた「基督教主義ニ基ク人格ノ陶冶」を削除しなければならなくなった。同じ頃、立教学院のキリスト教主義の象徴であったチャペルも閉鎖されてしまう。さらに、1943年には、理工系の教育を拡充して戦時態勢に即応させようとする文部省が、文科系の大学に対する理工系への転換、移転整理、専門学校への転換などの方針を明らかにした。そのため、医学部設置が頓挫し理工系学部をもたない立教大学は、存続の危機に立たされた。理科専門学校の設置や文学部の閉鎖はこのような状況への対応であった。このように、日米開戦以降の立教学院では教育が変質し、建学の精神や学校の存続が脅かされることになった。しかし、戦災をほとんど受けなかったのは「不幸中の幸い」であった。戦

災を免れた立教であったが、大学は築地本部や食糧倉庫、中学校は豊島区役所仮業務所と食糧倉庫、陸軍の宿舎と化していた。それでも、敗戦直後の1945（昭和20）年9月からは授業が開始され、不十分ながらも学園としての機能を取り戻しつつあった。

*戰後復興

授業開始からまもない 10 月 20 日、GHQ から 2 人の係員が立教大学の視察に訪れる。ひとりとはかつて立教大学で教鞭をとったことのあるポール・ラッシュであった。立教学院の記録によれば、ラッシュらは大学当局に対し、①予科校舎と食堂の清掃が不十分であること、②ミッションスクールである立教大学が依然として「御真影」を「奉安」していること、③チャペルのタブレットを取り外し、椅子を防空壕の覆いに使用したこと の 3 点について遺憾の意を表したという。このとき撮影されたと思われる写真には、戦前のチャペルにみられたスクリーンや椅子、祭壇周辺の装飾品などがことごとく撤去されたチャペルの姿が鮮明に記録されている。この視察にもとづいて、10 月 24 日に発せられた GHQ の「信教の自由侵害の件」では、チャペルへの「蛮の行為」や寄附行為の目的変更が「信教の自由に対する侵害」としてとりあげられ、幹部 11 名の追放と立教学院の再建が求められることとなる。キリスト教主義にもとづく再建をせまられた立教学院は、10 月 31 日付けで指名された 11 名の職を解くとともに、11 月 10 日には戦時中に変更した法人寄附行為の目的を戦前の「基督教主義ニヨル教育ヲ行フ」にあらためる申請を文部大臣に提出した。立教学院の再建は、(総長・校長事務取扱)となった須藤吉之祐によって開始されることとなる。本格的な再建は、1946 年 6 月に各校の総長・校長に就任した都立高等学校(現・東京都立大学)校長・佐々木順三によって着手された。当時作成された立教学院拡

張計画は、ラッシュの構想をもとにして作り上げられたものであり、日本聖公会を中心とする教会、教育機関、病院などの総合的な発展を説くものであった。立教学院に関しては、法学部・政治学部・文理学部・医学部の新設による立教大学の総合大学化や初等科の創設による一貫教育の整備などが構想されている。

*まとめ

追放されたポール・ラッシュが再び来日し、立教の再建に多大なる貢献を捧げてくださったことが我々の建学 150 周年を無事迎えることになった母校である。

忘れてはならない、建学の精神を表す3つの言葉を捧げる。

#ウィリアムズ主教 道を伝えて己を伝えず

#ポール・ラッシュ Do your best and it must be first class.

#剣を打ち直して鋤とし 槍を打ち直して鎌とする

国は国に向って剣を上げず もはや戦うことを学ばない
(イザヤ書 2 章 4 節)

戦時下の立教大学は、厳しい状況下でも、キリスト教主義教育の灯を消さずに守り、戦後は民主化とスポーツ振興に貢献しました。

執筆者としてはこれも入れたい。

#「私はきょう、引退をいたしますが、わが巨人軍は永久に不滅です」 今年ご逝去された大先輩長嶋茂雄終身名誉監督の言葉ですが、不滅という言葉に永久という意味が含まれ、重複表現とされていますが、言葉の響きがとてもよく心にのこる名セリフとなりました。わが巨人軍を拙は、「わが立教は」と重ねていく所存です。さあ、この秋清泉寮にポール・ラッシュに会いに行こう！

参考文献：大学 HP・聖路加 HP・東京 YMCA HP 等

日本茶ライフハック

～日本茶でビジネスや人生のクオリティを高める!～

第7回：抹茶ブームに思う——揺れる時代に問われる選択

最近、テレビや新聞で「抹茶ブーム」が報じられているのをご覧になった方も多いのではないのでしょうか。じつはこのブーム、関係者の長年の努力によってじわじわと広がっていたものが、SNSの拡散力によってマグマが吹き出したかのような勢いで世界を席巻しています。

しかしながら日本国内では深刻な問題も起きています。お茶会で使うような上質な抹茶まで入手困難になり、飲食店では価格高騰や入荷不安定により、抹茶メニューを外す動きも出ています。一度外されれば、再採用は難しく、日本茶文化の根幹に関わる問題です。

さらに心配なのは、中国で安価な抹茶生産がすでにすさまじい勢いで進んでいる中で、煎茶から抹茶に転換したり製造ラインを新設する動きが加速していることです。大量生産型の事業者は中国製抹茶との競

争にじきにさらされること
でしょう。

かといって、先細りする煎茶の生産を続けるべ

きか、抹茶に転換すべきかは簡単に論じられません。煎茶の供給量が減ることで価格は上がっていますが、そもそも需要は落ちています。来年、空前の煎茶ブームが来るかもしれませんし、誰にも未来は予測できません。

今売れているものに飛びつくだけでは、移り変わりの激しい時代を乗り切ることはできません。きっと今、茶業者は「自分が心の底から何をしたいのか」を問われているのではないのでしょうか。それは、どんな職業でも同じこと。私も、お茶でもいただきながら考えてみたいと思います。



プロフィール 満木 葉子 (みつき ようこ)

98年文学部心理学科卒業。

株式会社ねこぱんち代表取締役 / 一般社団法人日本茶アンバサダー協会代表理事

☆日本茶アンバサダー協会公式
Instagram

@enjoynihoncha

column

昨今の学生を起点に、 あれこれ考える



藤田 聡

(1987年経営卒、副会長、(株)企業変革創造代表)

この夏、新しいインターン生が3名加わった。偶々であるが、アメリカの大学に籍を置く2名、フランスの大学へ籍を置く1名である。中学、高校、大学からと渡航したタイミングは違えど、主体的に自分のキャリアを考える点では一致している。

スポーツの世界では、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手のような象徴的なリーダーが出てきて、日本を越え、世界的な規模で注目される人材が増えてきた。因みに、サッカー日本代表の久保建英選手とは中学校の後輩で、小職も中学時代はサッカー部でした…

大学生の間でも、最優秀層の役人離れ等、地殻変動が起こっている。社会的課題を解決すべく起業する学生、スタートアップ企業に入社する学生、コンサルや投資銀行等、プロフェッショナルファームもこのところ人気が高い。本学では、スキマバイトのタイミー社を立ち

上げた学生起業家、20代後半の小川嶺氏は“新しい形のリーダー”と言えよう。

思い起こせば、大学時代のゼミの先生（社会学部、故・野田一夫先生）には“大企業ではなく、ベンチャーへ行け！”と発破をかけられた。結局のところ、先生の意に反して、当時、世界的な大企業であったIBMへ入社するが、同時期のゼミ生と同様、ベンチャーに行く意義や価値が全くわからなかったものだ。

自己成長する上で、厳しい環境に身を置き、若いうちの苦労は必ず報われるという信念に基づいたメッセージであると思う。実際に理解できたのはかなりの年月を経てからだ。

以前、週1回、7年間、経済学部のゼミナールや経営学部の授業で池袋キャンパスへ足を運んだ。先日、証券会社の雄である会社へ血気盛んに入社したゼミの教え子の一人から、“何度も辞めようと思ったことが…。その際に、石の上にも三年—という理不尽な状況でも3年間は我慢なさい”という言葉の思い返し、耐えきったことで充実した今があります“—ということを何うにつけ、教師冥利に尽きるということも感じた次第。

自分も40年近く前に感じたことのように、こういう部分はいつの時代でも変わらない—不易の部分である、と思う今日この頃だ。

column

だめ安尾 アウトプットに 奔走中

(死ぬまで続ける トキアカ&コラム)



安尾 圭司

(1983年産業卒 日経情報活用アドバイザー)

「とにかくアウトプットが大事です。いま私が話したことを隣の人に直ぐ話してください」。2019年7月の日経セミナー。齋藤孝先生の言葉だ。「人生100年。身も心も柔軟にして可動域を広げよう。そして楽しく生きよう」。アウトプットの大切さを、手を変え品を変え約2時間、先生は話し続けた。

「情報活用力を高めるにはアウトプットが一番」と言い続けてきた私である。先生の話は目から鱗だった。そして、それまで続けてきたスクラップ発表会（日経新聞を読み興味を持った記事を切り抜く⇒意見を書き込む⇒それをグループで発表しあう）を一層強化した。参加者からは「アウトプットで記事の理解が深まった」「同じ記事でも人によって見る角度が違い、学びになった」「仲間の強みを知ることができた」などと好評だ。

しかし、私には大きな悩みがあった。限られた時間の中、スクラップ発表会の回数が多く取れないことだ。日々スクラップ作業をしても、やはりアウトプットの舞台がないと力が入らない。

しかし昨年これを解決してくれる「トキアカ」が誕生した。このアプリは、日経新聞のニュースから毎日2つの題材を選び、3択問題を4つずつ解く。そして5問目は、自分のアイデアを投稿するものだ。問題を解き、投稿に「いいね」をもらおうとポイントが付く。毎週、会社内と全体でのランキングが出る。

私は7月から「トキアカ」を投稿まで毎日続けている。いの一番に採用を決めてもらった社長と約束したからだ。どんなに下らない投稿でもやり続けるうちに「いいね」をもらえるようになってきた。その結果、途中経過では日経グループで1位にもなった。

この「トキアカ」、5年間続けた「日経お勧めコラム⇒毎週金曜配信」と共に死ぬまで続けるつもりだ。人生100年、楽しく生きるために。

☆「トキアカ」にご興味のある方はぜひ安尾までご連絡ください。

新しく会員になられた方々

(敬称略)

飯森 勝彦 1992 観光

全日本空輸(株) ANA あきんど(株)・取締役
〒103-0027 中央区日本橋 2-14-1
フロントブレイス日本橋
TEL: 070-4874-1916
E-Mail: k.iimori@ana.co.jp
航空会社

植松 茂 2003 院ビジネスデ

セイコーインスツル(株)
電子デバイス事業推進総括部 総括部長
〒261-8507 千葉市美浜区中瀬 1-8
製造業

大澤 周平 2006 コミュニティ福

(株) CHANCE 代表取締役
〒581-0072 八尾市久宝寺 4-1-26
TEL: 090-5494-2745
E-Mail: shuhei.osawa@chance-story.com
採用・人事

荻原 大青 2022 院人工知能

(株)豆蔵 K2TOP ホールディングス 社長室長
〒163-0434 新宿区西新宿 2-1-1
新宿三井ビル 34 階
E-Mail: taisai-ogiwara@mzk2.com

上代 永 2012 国際経営

(株)ハイロックス 技術部
〒166-0003 杉並区高円寺南 215-17
TEL: 03-3311-9911
E-Mail: hisashi@hiroxx.com
製造業 (光学機器)

小俣 雅邦 2012 院ビジネスデ

(株) U-NEXT HOLDINGS
(株) U-POWER 執行役員
〒141-0021 品川区上大崎 3-1-1
目黒セントラルスクエア
TEL: 090-3917-6561
E-Mail: m-komata@unext-hd.jp
小売電気事業

須賀 高明 1987 物理

富士通ネットワークソリューションズ(株)
代表取締役社長
〒212-0014 川崎市幸区大宮町 1-5
JR 川崎タワー
TEL: 044-330-9700
E-Mail: t.suga@fujitsu.com
情報通信

高安 敏行 2019 院ビジネスデ

(株)笑認 代表取締役
〒171-0021 豊島区西池袋 1-11-1
メトロポリタンプラザビル 14階
E-Mail: t-takayasu@shounin.jp
HR 人事評価・人材笑認システムの開発

田中 成憲 2008 社会

(株)イーグルビジネス 代表取締役
〒359-0036 所沢市旭町 24-7
TEL: 04-2994-2577
不動産業

中嶋 忠 1980 経済

ヒューリック(株) 取締役副社長
〒103-0011 中央区日本橋大伝馬町 7-3
TEL: 03-5623-8120
FAX: 03-5623-8121
E-Mail: nakajima.tadashi@hulic.co.jp
不動産業

福島 謙二 1990 心理

(有) E&C 総研 代表取締役
受験戦略家、教育コンサルタント、
コーチング

福田 恵太 2005 国際比較

プロアクト法律事務所 パートナー弁護士
〒105-0001 港区虎ノ門 5-12-13
ザイマックス神谷町ビル 7 階
TEL: 03-5733-0133
FAX: 03-5733-0132
E-Mail: kf@proactlaw.jp
弁護士

水谷 光太 2014 国際経営

アデコ(株) シニアファイナンスマネージャー
〒100-0013 千代田区霞が関 3-7-1
霞が関東急ビル
人材

村田 英行 1981 経済

(株)東京商工リサーチ 本社 取材センター
〒103-0005 中央区日本橋久松町 6-9
TRS アネックスビル
TEL: 03-5640-0555
信用調査会社

山本 健太 2012 法

レイ法律事務所
弁護士

編集後記 ニュースでは「平年を上回る酷暑」と言われますが、毎年記録を更新している夏の暑さ。今年も一時の涼を求めて家族と清泉寮に行ってきました。今回の会報誌では黒田さんがポール・ラッシュ博士のコラムを書かれていますが、奇しくも今年はポール・ラッシュ来日 100 周年、清泉寮には記念するペナントが掲げられていました。清泉寮隣にあるポール・ラッシュ記念館では、「昭和 100 年×ポール・ラッシュ来日 100 周年特別記念企画展」が 11 月末まで開催中。昭和の時代と共に歩んだポール・ラッシュの足跡を辿る貴重な展示をご覧ください。ぜひこの機会に清里にも足をお運びください！ポール・ラッシュ先生に思いを馳せつつ、今日も立教に乾杯！ —松原 伸禎 2000 史—